研究レポート

LINEにおける方言使用について[1]

坂本　佳央理　　谷口　聖那[2]

1. はじめに

次の（1）（2）は，筆者が実際にLINEでやり取りした会話である。

（1）A：「始まって間もないくらいやろけんちょうどよかやん」
B：「うん！そうね」
A：「9時半視聴予約しとる」
B：「9時半か！」
「もうそろやん」
A：「です」

（2）A：「視聴型ってことはダウンロードだけしとけばいいんかな？」
「それで出席ってことよね？」
B：「多分そうだと思うー」
A：「ありがとう！」
B：「あ，わからん」

（1）や（2）のやりとりでは，「やろけん」「よかやん」「しとる」「やん」「いいんかな」「わからん」といった地域方言が多く使用されている。

筆者（坂本・谷口）と同じく長崎に在住する女子大学生の間では，上に示したように，LINE上で頻繁に方言が使用されているのではないかと予測される。

本稿の目的は，長崎に在住する女子大学生を対象として，LINEで使用されている言語の実態を記述し，さらに，その中で地域方言（長崎方言），長崎方言以外の方言，標準語などの変種がどのような要因（人間関係，意図，感情，意識など）によって現れたり切り替えられたりするのかを明らかにすることである。

---

[1] 本稿は，本学国際文化学部日本文化学科日本語日本文学コースにおいて2021年度後期に開講された「日本語学セミナーⅡ」（対象学年：大学2年生）でのグループ学習による研究成果をまとめたものである。

[2] 本学国際文化学部日本文化学科3年生。2021年度「日本語学セミナーⅡ」の受講生。

2. 先行研究

小林（2004）は，生育地方言の使用が，「スタイル」としての使用から，地元らしさを示す「要素」としての部分使用に移行しつつあることを指し，これを「方言のアクセサリー化」現象と呼んだ。

また，田中(2007)は，「方言を目新しいもの，おもしろいもの，価値あるものとして，それが生育地方言であるか否かを問わず，バリエーションを広げたり，楽しんだりすることを主目的に採用・鑑賞する」という，方言に対する受容態度と運用態度を「方言のオモチャ化」と呼んでいる。

二階堂（2009）は，福岡の大学生の携帯メールにおける言語使用の状況について「方言が未だシステムとして機能している」と述べている。二階堂（2009）は，アンケート調査の結果から「メールでの地元の方言を使用する生徒は，ごく自然な肌に近いような感覚で方言を使用していると思われる」としている。

田中・前田（2012）は，全国県民意識調査による地域分類において方言主流社会群に分類された「中国・九州・四国型」では，「「出身地方言」が非常に好きで，「家族」「同郷友人」に対する「出身地方言」使用率が高い」としている。

三宅（2018）は，生育地方言ではない方言を「エセ方言」とし，SNS 上での方言・エセ方言使用の実態と使用意識に関する考察がされている。

3. 本稿の目的と枠組み

本稿の目的は，以上の先行研究を踏まえ，長崎の大学生が LINE の中で使用している日本語について，以下の点を明らかにすることである。

・長崎の大学生が LINE の中で使用している日本語の記述を通して，それで使用される日本語の種類（変種）を明らかにする。

これを基本的なデータとして，以下を考察する。

・本稿では，LINE での会話の中で出身地の方言が「無意識的に」「自然に」発せられている状態を「反射」と呼ぶことにする。「反射」として長崎方言が使用されている状態から，それ以外の別の変種へと移行するポイント，あるいは，意識的に方言が使用されるようになるポイントを，「転換点」とよぶことにする。このような「転換」が発生する背景を明らかにする。

4. 調査

本稿では，次の 2 つの調査を行った。

調査①　実際に使用された LINE の画像の収集
調査②　LINE における使用者の意識を問うアンケート調査

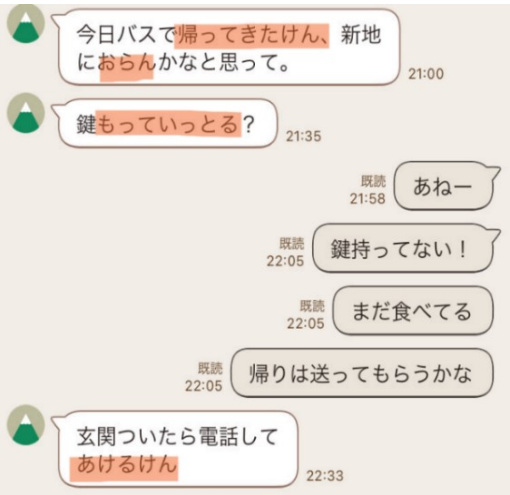
調査①の調査対象は，19 歳から 20 歳の現在長崎在住の女性（大学生）である。提供数は 10 件。提供の内容は，１節に示した（１）（２）ような LINE でのやり取り，および，その画像である。

調査②のアンケート調査は，「google フォーム」という機能を使い，2022 年 1 月 30 日から 2 月 9 日までの 11 日間をかけて行った。対象者は LINE 資料を提供してくれた学生を含む，19 歳から 20 歳の現在長崎在住の女性（大学生）である。得られた回答数は 36 名。質問の内容は，末尾の資料１・資料２を参考にしてほしい。このうち，未回答者や未回答の項目はなかった。

5.　結果（調査①）

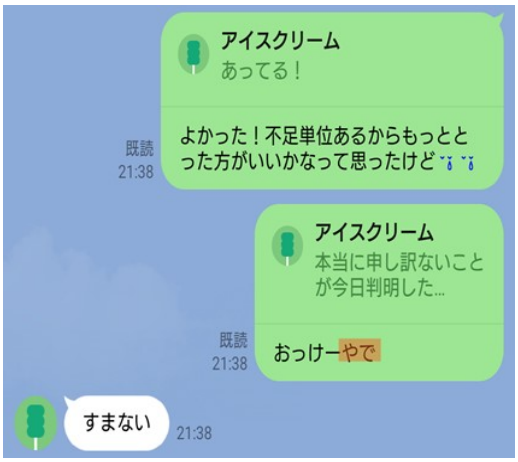
ここでは，調査①の結果を 3 つのタイプに分類し，その一部を示す。

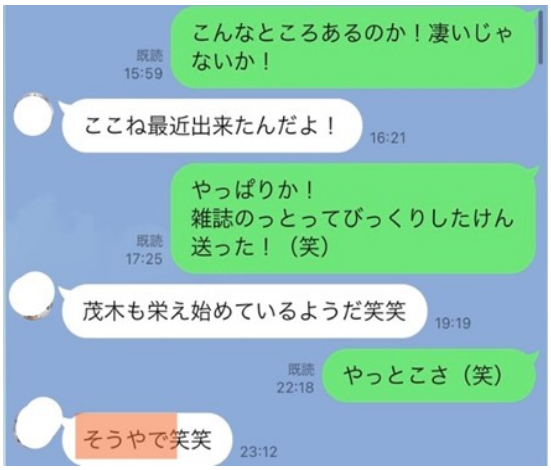
5.1.1　「反射」の画像



上の画像の中の網掛け部分は，長崎方言で無意識的に話されていると考えられるものである。この画像は提供者とその親との会話である。

5.1.2　「転換①」の画像

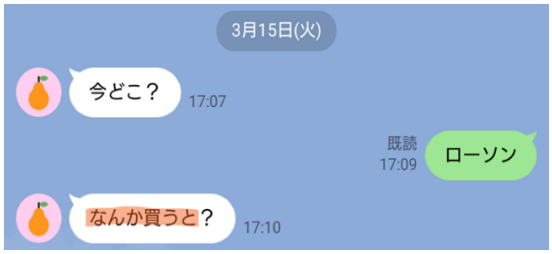




上の画像の網掛け部分は，長崎方言話者が無意識的に長崎方言を使用している部分から他地域の方言の意識的な使用に変化する部分のものである。画像の中で使われている「おっけーやで」「そうやで」は関西方言である。

5.1.3 「転換②」の画像





上の画像の網掛け部分は，長崎方言話者による無意識的な長崎方言の使用から意識的な長崎方言の使用に変化している部分ある。

6. 考察：調査②（アンケート調査）に基づく調査①の結果の分析

6.1 「反射」の画像分析

「反射」とは長崎方言が LINE 上で無意識的に話されている場合である。画像は提供者とその親との会話である。調査①（アンケート調査）の結果をまとめた，資料１，資料２，資料５の結果から，親や長崎方言話者である親しい友達というような近しい間柄の人には方言が自然と無意識的に発話される「反射」の現象が起こりやすいと考えられる。

資料１では，LINE で方言を「時々使用する」「使用する」と答えた人の割合は，83.3%であった。また，資料２では，資料１において「時々使用する」「使用する」と回答している人に対して，LINE で方言を使用する際，方言の使用を「全く意識をしていない」を 0 とし，「意識的に使用している」を 3 とする 4 段階で，質問をした。その結果，73.3%が 0 と回答しており，大部分の人が LINE 上で無意識的に方言を使用していることがわかる。

それを踏まえて，資料５は，「LINE を使用する目的に該当するもの」を選ぶ質問を複数回答可で行った。その結果，「友達と日常で連絡を取り合うとき」は 100%，「友達に学校の事務連絡をするとき」は 90.9%，「家族と日常で連絡を取り合うとき」は 97%，と家族や友人など親しい関係にある人と連絡を取るときに LINE を使用する，という傾向が大きな割合として見られた。

この結果は，先述の，全国県民意識調査による地域分類において方言主流社会群に分類された「中国・九州・四国型」では「「出身地方言」が非常に好きで，「家族」「同郷友人」に対する「出身地方言」使用率が高い（田中・前田（2012））」という分析と一致している。

6.2 「転換①」の画像分析

「転換①」は，長崎方言話者が無意識的に長崎方言を使用している部分から，他地域の方言を意識的に使用する部分に変化しているケースを指す。画像はどちらも長崎方言話者である親しい友達同士といった間柄である。これらの画像に見られる「そうやで笑笑」「おっけーやで」という表現は関西方言である。

アンケートで方言使用について「あまり意識していない」と回答した 7 名（23.3%）に対して，どのような時に意識するのか記述してもらったところ，「会話中に友達につ

っこんだりする時に「なんでやねん」を使用する」や「待ち合わせの時に「中おるね」」などの回答があった（資料１～資料３参照）。

三宅（2018）は，「SNS 上のエセ方言も，その効果として「親しさ」「柔らかさ」「楽しさ」があげられていたことから，親しさ志向の言語ディバイスとして力を発揮していると考えることができる」と述べているが，本稿での用例も，＜口調が柔らかくなる＞＜場を和やかにする＞＜ふざけたりする＞等の表現効果をねらって意識的に関西方言が使用されていると思われる。

6.3　「転換②」の画像分析

「転換②」は，長崎方言話者が，無意識的な長崎方言の使用から意識的な長崎方言の使用に変化する部分である。具体的には，長崎方言話者である友達や家族といった親しい間柄の間で発せられた，画像の「勉強いっちょんできん」「なんか買うと?」の部分である。

これらの方言使用が意識的に行われたことは，画像提供者へのフォローアップインタビューから明らかになった。今まで無意識的に使用していた長崎方言を意識的に使用したのは，「冗談で面白くする」「相手にねだるために雰囲気をやわらかくする」といった表現効果をねらったため，とのことであった。

この調査結果は，LINE で使用される地域方言（出身地方言）の中にある種の異なるレベルが存在することを示唆している。一方は，二階堂（2009）で述べられている，システムとして機能している段階の地域方言のレベルである。もう一方は，ある種の表現効果をねらって意識的に使用される地域方言である。ここでの使用動機には，方言のオモチャ化・アクセサリー化に通じるところがあると思われる。

7.　おわりに

本稿では，長崎の女子大学生（19～20 歳）が LINE 上で実際に使用している日本語の変種について調査し，以下の結論を得た。

① 80%以上が LINE で方言を使用している。
② LINE で方言を使用すると回答した人のうち，70%以上が全く意識せずに方言を使用している。
③ 全く意識せずに長崎方言を使用している状態から，意識的に他の言語変種を使用する状態に「転換」が起こる場合が観察される。一つは，関西方言への「転換」であり，もう一つは，長崎方言の意識的な使用である。「転換」の動機は，いずれも，ある種の表現効果をねらったものであり，方言のオモチャ化・アクセサリー化に通ずるものがある。

参考文献

小林隆(2004)「アクセサリーとしての現代方言」『社会言語科学』7-1，社会言語科学会

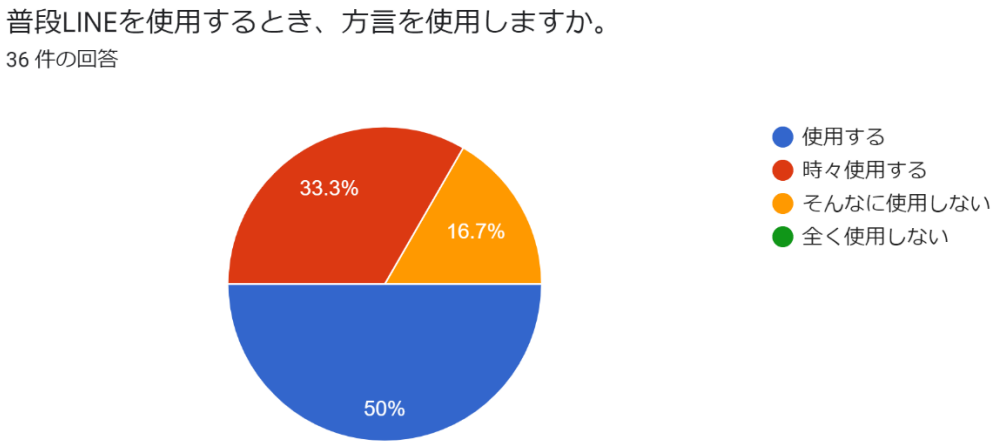
田中ゆかり（2007)「着脱される「属性」―方言「おもちゃ化」現象―」『社会言語科学会 第 19 回大会発表論文集』，社会言語科学会

田中ゆかり，前田忠彦（2012)「話者分類に基づく地域類型化の試み ： 全国方言意識調査データを用いた潜在クラス分析による検討」『国立国語研究所論集』3

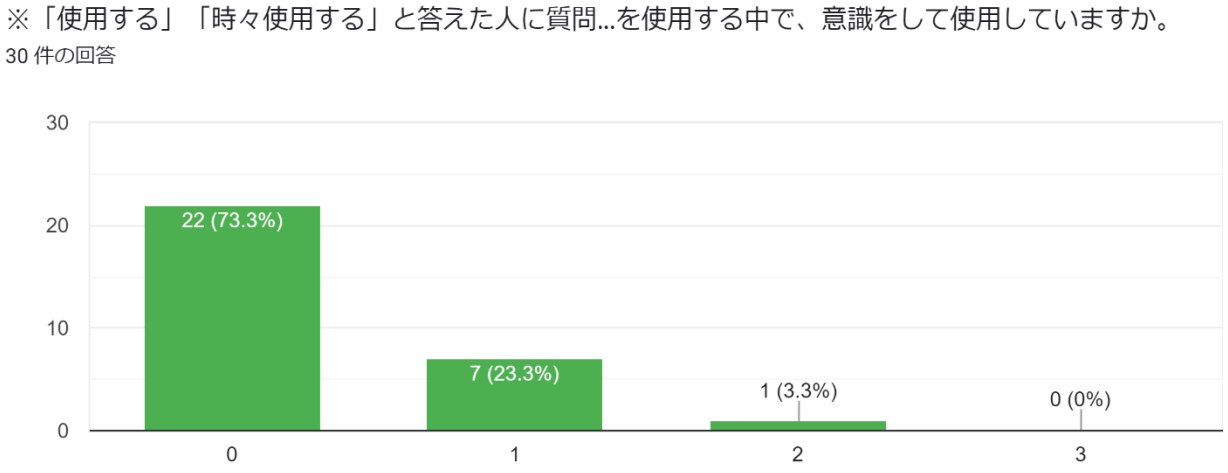
二階堂整（2009)「福岡の大学生の携帯メールにおける方言使用」『山口国文』32，山口大学

三宅和子（2018)「SNS における方言使用の実態―エセ方言はいつ、誰に使うのか―」『文学論藻』92，東洋大学

資料１



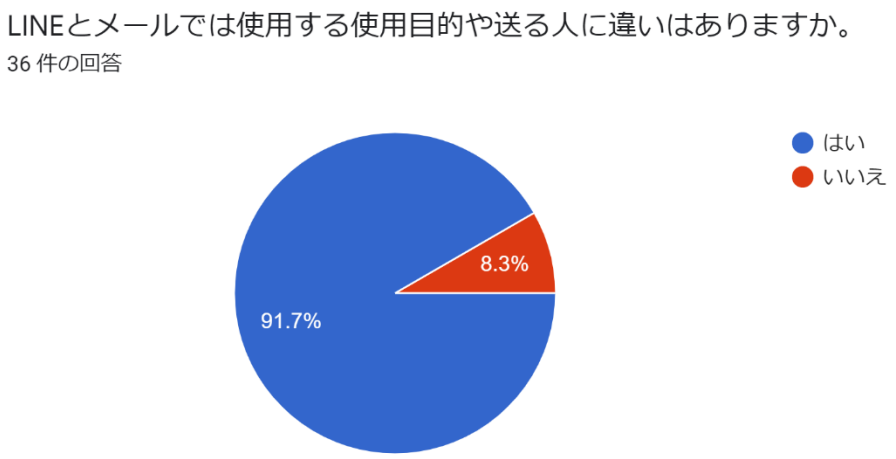
資料２



資料３

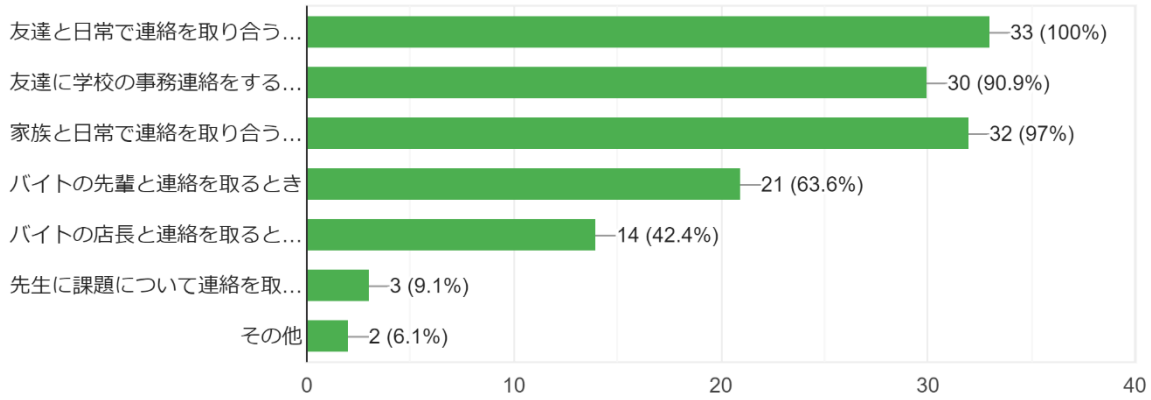
Q　1.2.3 を選んだ人に質問です。どのような時に意識しますか。簡単な文章で構わないので，記述をお願いします。
会話の中で友達につっこんだりする時，「なんでやねん」を使用する。
○○におるけん待っとって
中おるね！(待ち合わせの時)
県外の人と LINE する時は，これで通じるかな？と考えます。
関西弁を使っている時は，場を和やかにしたり，ふざけたりするような意識が多少ある。
意識的に使用しているかは分かりませんが，他県の方と LINE をする際，無意識に方言を使いますが送る前に，方言だけどいいかな？まぁ伝わりそうだし大丈夫か，長崎感が出るしって感じで一応は意識してます。
相手に伝わるか文を見返している時です。
～したけん
方言の方が口調が柔らかくなると思った時に使うようにしています。
～ばせんばやろ？

資料４



資料５

※「はい」と答えた人に質問です。LINEを使用す...当するものをすべて選んで下さい。（複数回答可）
33 件の回答

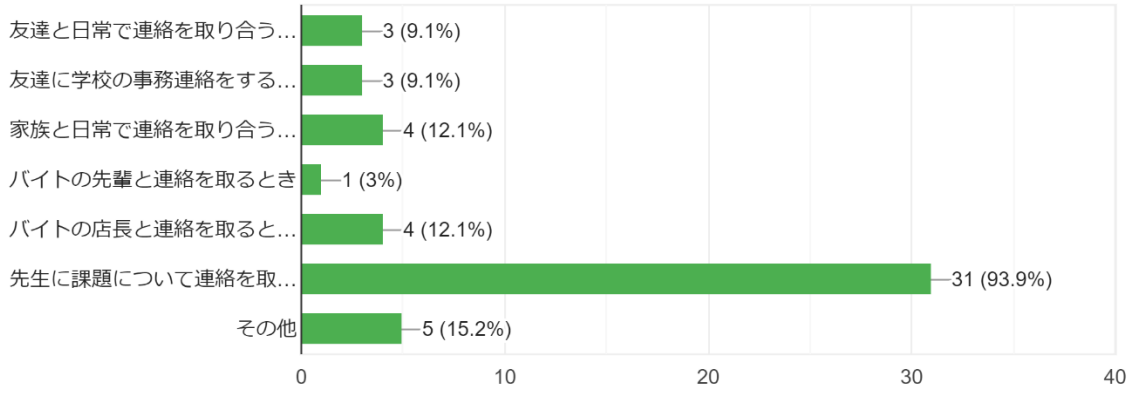


資料６

Q　その他を選んだ人は，どのような使用目的ですか。
公式ラインで情報得たり，クーポン使ったりするため
複数人と会話もしくは通話をしたい時

資料７

※「はい」と答えた人に質問です。メールを使用す...するものをすべて選んで下さい。（複数回答可）
33 件の回答



資料８

Q　その他を選んだ人は，どのような使用目的ですか。
母と叔母への連絡はメールをしようする。
予約しておいた美容院や飲食店からの確認や返信等に使います。
入ってる団体の連絡，何かの申し込み
インターンシップ先の方やバイト先の方と連絡を取るとき
他大学の教授などに連絡をとる時